

リハビリテーション医療介入法の多様化のための用語の統一 に関する意見交換-創動運動とタキザワ式の国際標準化の推進

滝沢 茂男¹

¹バイオフィリア研究所

我々の目的

既存のリハビリテーション医学はその介入方法として理学療法士による他動運動が中核であることは間違いない。

さらに今日ロボットの導入やチーム医療が進められている。

この中に我々の推進する創動運動を中核とした自律的な運動リハビリテーションは取り入れられていない。

我々の目的は、自律的な運動リハビリテーションを治療の介入方法の一つとして位置づけて、その効果を利用者患者さんに体感してもらい、自身の健康をさらに高めてほしいという願いを持っている。

そこで今回、我々は、これまでのリハビリテーション医療に用語として取り入れられていないが、我々が常時使っている用語について定義を行う。

介入方法が世界的に受け入れられリハビリテーション医療の介入を多様化するという前提において国際的な意思疎通に用いる標準化した用語の確立をしたいと考えている。

そこで既存のリハビリテーション医学で用いられている用語をリストした。その用語は今回のオーガナイザーである筆者が個人として収集した。以下に示す。

- 1 WHO の障害分類
- 2 日本リハビリテーション医学会の用語辞書
- 3 BRA の会長であった福井圀彦氏が発行していた脳卒中ガイドラインに定義されている日本語と英語の対訳辞書

この辞書群と一般的に使われている言葉に対し、我々の進めている運動リハビリテーションの技術用語を対比している。

内容は、発明とこれまでの研究と活動に係る報告である時事通信の記事集（内容の利用については当時の編集長の許可を得た。）と書籍「寝たきり老人を歩かせる」に係る日本語と英語を単語として分解し、今後必要と思われる用語を抽出して、先に述べた既存のリハビリテーション用語と対照し、その中に入っていない言葉について検討する。

検討の方法は、まず初めに、筆者がどういう既存の日本語英語の訳文をチェックしたかを提示する。

そしてのマイニングで用語を抽出した抽出リストどの特許からどういう用語を抽出したかを明らかにする。続いて記事集と書籍を同様に処理する。

この研究概要をご覧になった方はぜひご自分で以下①-②のホームページに示す既存の用語とチェックし直し、この定義が文字を見ただけでも、話を聞いただけでも理解できるかできないか、を検討していただきたい。① <https://www.biophilia.biz/seminar/10.pdf>

② <https://www.biophilia.biz/seminar/10.pdf>

定義として定めるためにどのようなことが必要なのかを検討していただきたい。

我々は2時間の討議で案を作成し、報告書に掲載する。また、報告書の体裁についても検討する。

今後、用語の標準化により、多くの方が我々の研究内容や実際の介入を理解できるようになるよう検討・研究を進める。

皆様のご協力を得て、充実した討議にしたい、ご協力をお願いします。